

安全・安心で暮らしやすい住まい方

◆目標

- ・道具や家具の使いやすさは身体の寸法（サイズ）と関係し、住まいなどの空間の寸法も身体の寸法がひとつの基準となっていることを知る。
- ・基本の寸法は、平均的な身体の寸法や動作から決められた「標準」であり、すべての人にとって使いやすく、安全であるというわけではないことを学ぶ。
- ・身体の寸法だけでなく、身体状況の違いや変化に応じた、安全で暮らしやすい住まい方の工夫を知る。

◆授業の流れ（50分）

時間	内容	支え	備考
10分	寸法クイズ① 「教室の机の幅はどうやって決められている？」	・肩幅＋腕の動きに必要な寸法。 ・60cmはJISの最低基準。 ・JISは平均的な身体のサイズから決められた「標準」で、誰もが使いやすいものではない。ただし、時代とともに見直しもされている。	ワークシート
	寸法クイズ② 「畳の大きさは？」	・畳は元々は寝具、座具として作られたもので、人ひとりが寝られる大きさ。 ・両手を広げた長さ≒身長。2畳≒大の字で寝られる広さ。2畳＝1坪。 ・畳のように、身の回りには、身体のサイズに合わせて作られているものが多いことを知る。	ワークシート
	おまけ「尺取虫」	・名前の由来は、尺取虫の動きが人が尺を取る様子に似ているから。 ・英語でも「inchworm」や「measuring worm」という。	
10分	・サイズが身体に合っていれば、誰もが使いやすいだろうか？ → 高齢者体験 妊婦体験	・2人に階段の上り下りを体験してもらう。 ・体験グッズを装着している間、他の生徒には、「住まいの中で不便なところ不都合なところ」について考えながら見るように伝える。 ・高齢者、妊婦体験の感想を聞く。	体験グッズ いす、踏み台
3分	<考えてみよう> ・住まいの中で不便なところ、不都合なところはないだろうか？	→ ①誰にとって？ ②どんなところが？ ③その対策は？ ・高齢者、妊婦体験の様子を踏まえ、考えさせる。 ・ワークシートに記入。 ・グループで話し合ってもよい。	ワークシート
3分	・考えたことを発表	①誰にとって？ ・ワークシートに書けていなくても意見を引き出す。	
5分	・身体機能の違い・変化について	・意見を踏まえ、身体のサイズだけでなく、身体機能の違いや変化が影響することを確認 ①加齢による変化（赤ちゃん→お年寄り） ②個人の身体機能の違い （妊娠している、背の高低、怪我をしている、視力、聴力、車いす など） ・家庭内事故の死亡データを知り、身体機能の違いによって、家の中にも危険があることを認識する。	

7分	- 考えたことを発表 - 住まいの中の対策について	- ワークシートの、 ②どんなところが？③その対策は？ を発表させながら進める - 住まいの中での対策について、具体事例を紹介 (浴室・洗面所、トイレ、玄関、廊下・階段、ちょっとした段差、その他)	
----	--	---	--

時間	内容	支え	備考
7分	・バリアフリーとユニバーサルデザインの紹介	- それぞれの考え方の違いを紹介 → ある特定の人が対象⇔すべての人が対象 - ユニバーサルデザインの事例を簡単に紹介 - まちや建物だけでなく、もの、しくみ、サービスなども対象であることを押さえる。	
5分	<まとめ>	- 身体のサイズを基準にして作られた道具や家具や空間は使いやすく、暮らしやすい。 - 身体の寸法だけでなく、身体機能の変化や違いによっても使いやすさ、暮らしやすさは違うので、それらに対応した工夫をすることも大切。 - 物の整理・整とんや清掃をすることで、安全性や心地よさも向上する。 (逆に使い方を誤れば、不便になったり、危険になったりする。)	ワークシート